

①事務事業名		担当 課係	内線	1226
事業コード	豊前市総合型地域スポーツクラブ		教育課社会教育係	
開始年度: 平成	平成15年度 ⇒ 終了年度: 平成			

②事務 の 位 置 づ け	事業の種類	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		
	根拠法令	☐ あり () ☒ なし		
	分野別計画・指針	☐ あり () ☒ なし		
	総合計画の体系 (☒ あり ☐ なし)	5つの柱	4	こころ豊かに一人ひとりが輝く生きがいあるまち
		まちづくりの目標	7	生きがいのあふれるまち
		基本方針	20	生涯学習・生涯スポーツの振興
		施策区分	39	スポーツ活動

③事業の概要・内容(Plan)

事業の概要	市内での定期的なスポーツ活動の実施、年間計画に基づくスポーツ行事の実施、本クラブを構成する諸機関・団体等が開催するスポーツ行事等への参加及び支援、クラブの目的達成のために必要な事業の実施
-------	---

事業 の 内 容	対象(誰を対象としているのか)
	市民
	目的(何のために行うのか、具体的に)
	日常生活の中で自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を維持増進するとともに、会員相互の親睦を図り、地域社会の連帯と明るく豊かな生活の実現に資することを目的とする。
	手段(どのような方法で実施するのか)
	子どもから大人まで誰でも気軽に入会でき、色々なスポーツを楽しめる総合的なスポーツクラブぶぜんピープルズを運営し、年間を通してだれでも・どこでも参加できるスポーツ教室を開催します。スポーツイベントなどにも自由に選んで参加することができます。年齢や目的に応じて、やりたいスポーツを何種目でも楽しむことができます。

④事務事業の実施状況・現状把握(Do)

活動 指 標	指標名等(説明・算定式)	単位	H21	H22	H23	H24	H25
			実績	実績	目標	目標	目標
	広報件数	回	12	12	12	12	12
	教室の設置数	教室	18	18	18	15	15

成果 指 標	指標名等(説明・算定式)	単位	H21	H22	H23	H24	H25
			実績	実績	目標	目標	目標
	会員数	人	334	308	400	450	450
	利用者延人数	人	15,044	14,453	15,000	15,000	15,000
	指標化(数値化)できない成果						

事業 費	事業費(単位:千円)	決 算 額		予 算 額	計画(概算見積もり)	
		H21	H22	H23	H24	H25
	財 源 内 訳	国・県支出金	2,316	0	0	0
		地方債				
		その他	1,955	1,950	1,950	1,950
		一般財源	580	1,000	1,000	1,000
	事業費合計 (b)		4,851	2,950	2,950	2,950

⑤事務事業の評価 (Check)

必要性	公共性は	■高い □普通 □低い			
	住民ニーズは	■高い □普通 □低い			
	現時点でこの事業を取り巻く状況に該当するものは	□1 事業開始時と比較して社会経済状況が変化、または目的がすでに達成されたなど実施意識が低下している。			
		□2 ニーズと比較してサービスの供給が過剰となっている。			
		□3 国や他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地がある。			
		□4 国または県において、同種のサービス提供が行われている。			
□5 民間の活動を阻害、あるいは民間と競合している。					
		■6 上記に該当する項目はなく、市による事業は妥当である。			
有効性	上位施策に対する貢献度は	□1 政策・施策への貢献度が著しく高いとはいえない。			
		□2 政策・施策の目的を実現するためには、実施内容が必ずしも適切ではない。			
		□3 当該事業を現在の実施内容で継続しても、成果の向上が期待できない。			
		□4 類似・重複した事務事業が存在する。(事業名)			
			■5 上記に該当する項目はなく、上位施策への貢献度を認められる。		
目標に対する達成度は		□非常に高い ■高い □低い □非常に低い			
効率性	単位コストの状況は	□かなりよかった ■よかった □変わらない □悪くなった □かなり悪くなった			
	事業費や人件費削減の工夫は	□1 従事人員の見直しによりコストを下げる余地がある。			
		□2 事務改善(手順の見直し・作業の効率化・IT活用等)によりコストを下げる余地がある。			
		□3 契約内容の変更によりコストを下げる余地がある。			
		□4 他の実施主体の活用によりコストを下げる余地がある。			
		■5 その他見直し・変更によりコストを下げる余地がある。(受益者負担等)			
		選択しなかった根拠	□1 既に活用している。		
			□2 法的に行政職員が行うべき。		
			□3 市民サービスが低下する。		
			□4 他の実施主体が持つ専門知識、経営能力、技術力等を活用できない。		
□5 コスト削減が期待できない。					
		□6 公平性・公正性、守秘義務が保証されない。			

⑥事務事業の改善 (Action)

所属長所見	今後の方向性等(所属長所見・意見等)				
	23年度より講師謝金を減額し教室数の見直し等を行い、支出の減に努めています。併せて、教室が終了となったものもあり、ピープルズの会員数が減少しているため、23年度は会員確保の一環として一日体験教室ピープルズ祭りを企画し、総合型スポーツクラブのPR活動に努めます。				
評価	- 充実 - 現状維持 - 改善 - 縮小 - 廃止	現状維持	意見等		
		利用者のニーズに応えられる運営を目指し、更なるコスト削減に努めること。所属長所見のとおり。			
	作成年月日		平成23年 6月30日	内部審査	平成23年10月7日